



オリーブの実

2021. 新春号

発行 児童家庭支援センター オリーブ

松戸市根木内145

TEL 047-340-1151 1153

児童家庭支援センターオリーブは、平成22年9月に開設してから10年が経ちました。今後も地域の相談機関として邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、コロナ禍で世界中が危機的状況に陥り、経済や生活が一変し、私たちの日常が大きく脅かされました。特に、ひとり親家庭や保護者の仕事なくなってしまった家庭は、毎日不安を抱えながら子どもを養育しなければならない状況が続きました。今日は一食しか食べていません、もうお米がないです、そんな声も聞こえてきて緊急に食の支援を行なった一年でもありました。

そんな中で巻き起こったのは「鬼滅の刃」ブーム。何がそんなに魅力なのか、本屋に並んだこの本を手に入れました。時は大正時代、物語は家族の生活のために炭を売る男の子が、鬼に大切な家族を奪われ、その日を境に鬼に立ち向かうために強く逞しい剣士に成長していく姿が描かれていました。時代が変わっても貧困は今の時代も社会問題になっているし、現実コロナや天災、人災等で突然身近な人を失い、平凡な家族とのしあわせな生活が突然奪われることも起きている。

主人公が成長する過程は、失敗したり、途中で弱音を吐いたり、頑張っても報われなかったり、決して順風満帆ではありませんが、苦難の度に自分を励まし、仲間に力を借り、仲間に希望を与え、どんなに過酷な状況に置かれても考えて考えて答えを導き出す等…人は強く生きて行けるのだと教えてくれているような気がしました。そして何よりも潔いほど、正々堂々と相手に立ち向かっていく姿は、子どもたちにストレートに伝わる描写であり、この作品が支持される理由なのだと思えました。

物語の中で、病に伏す母が「よく考えるのです。なぜ、自分が人よりも強く生まれたのかわかりますか」と幼い息子に聞く場面があります。「わかりません」と答えると母は「弱き人を助けるためです」と言い、さらに「生まれついて人よりも多くの才に恵まれたものは、その力を世のための人のために使わなければなりません。天から賜りし力で人を傷つけること、私腹を肥やすことは許されません」と告げるのです。その言葉は、幼い息子の心にもじんわりとしみ込んでいきます。そして子は、亡き母の言葉を忠実に守り、決して人を傷つけず生きていきます。・・・親として、子どもに何を伝えていくのか、伝えていけるのかを深く考えさせられた場面でした。

2021年、子どもたちの未来が、どうか明るく、希望を持って生活できる社会になりますよう心よりお祈りしています。

(センター長)



♡こころのハンモック♡



「しつけ」と称して行われている虐待の数々…じゃあ、「しつけ」ってなんだろう？
高祖常子先生の子育て講演会から、是非知っていただきたいことをまとめてみました。

しつけとは、子どもが自分から、習慣的に行動できるようになること。
「親に言われてする」「強制的にやられる、やめさせられる」ことではない。

親も人間だし、子どもを叱るときに感情的になってしまうこともある。
では子どもに、叩くこと、怒鳴ることを続けたら、どうなるのでしょうか。

子どもは… 恐怖や不安によって支配され、SOS が出せなくなる

親がしていることは 問題の解決方法ではなく、暴力を教えている

つまり

百害あって
一利なし

怒鳴ったり叩いたりせずに、子どもを育てて、しつけるためには…？

例えば…いつもお友達とおもちゃを取り合いになってしまうお子さんに、どう関わればいいでしょう？

① まずは子どもの気持ちを受けとめましょう。

もっと遊びたい！

「もっと遊びたいんだね」「そうだよ、遊びたいよね」
→気持ちを言葉にする。行動の背景には理由がある。

② 相手の気持ち、ママパパの気持ちを伝える。「お友達も遊びたいんだって」「貸してあげてほしいな」

→状況の整理をし、子どもの視野を広げる。

③ 方法を考えさせる、またはアドバイスをする。「どうしたらいいかな？」「順番に遊ぶのはどうかな」

うーん…

→成長に応じて選択肢を示す、解決のヒントを与える。

④ 子どもが自分で決めて動く。（自分で決めることで、幸せ度は上がります！）

→可能な場合は、できるだけ子どもに選択させる。

子どもとポジティブにつきあうためのポイントは ★子どもも1人の人間として、尊重しましょう。

★悪い行動を叱るより、いい行動をほめましょう。

自分の行動が認められた時に、子どもの自己肯定感は育ち始めます。

「子どもが自己肯定感を持って、自分と相手の気持ちを尊重し、自分で判断できるように」

…なっていくと、いいですね。

～～ 子育て講演会『つらくない子育てを目指そう』を終えて ～～

11月27日（金）松戸市民会館において松戸市役所主催オリープ共催の子育て講演会が開催されました。子育てアドバイザーの高祖常子氏を講師にお迎えし、子育ての困ったに直面した時の対応の仕方を具体例を交えながらお話いただきました。内容は実践的かつとても分かりやすいものでしたので、子育て中の親御さんや子育て支援に携わる方々にも非常に参考になったのではないかと思います。

コロナ下にも関わらずご来場くださった皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

性暴力から子どもを守るために

“性暴力 虐待”は思わず目をそむけたいくなる言葉ですが、内閣府の調査によると全女性の0.78%（129人にひとり）が親、養親、親の交際相手、兄弟、親戚などから「性虐待」に該当しそうな暴力を受けていることとなります。社会の在り方全体が問われる問題ですが、目の前の子どもを守るために私たちが出来ることをお伝えします。（H28年内閣府統計調査より算出）

★子どもが性被害にあわない、性被害者にならないために伝えたいこと

水着でかくれるところは自分だけの大切な場所である
“大切な場所へのいやなタッチ”は性暴力であること



自分だけの大切な
プライベートゾーン

★子どもから性被害を開示/初めて話されたときの「最初のひとこと」

- 「あなたは悪くない」「よく話してくれました」◎
- 「あなたの人権をまもるお手伝いをさせてください」◎
- 「生き延びるために最善の努力をしましたね」◎

👉以下の声かけはNG

「ほんとうなの？と何度も聞く」「そんなはずはない」「そんなところに行くから悪い」などは、二度と相談する気持ちを失わせ、自分を責めたり、なかったことにすることで深く心と体に傷をおうこととなります。また何度も被害の状況を説明することは子どもの心の負担になりますので、下記の専門機関に相談してください。

【千葉県性暴力被害支援センターちさと】043-251-8500【柏児童相談所】04-7131-7175

“子どもの食緊急支援プロジェクト”

この春、コロナ感染拡大を受けて一時休校になり、全国に広がった子ども食堂も多くは活動が休止になった状況の中、子どもの食を寄付金で支援しようと、全国の有志によるプロジェクトが立ち上がりました。

*子どもの食緊急支援プロジェクトのHP <https://ff.1m-cl.com/s/>



集まった寄付金は全国の児童家庭支援センターを通して、各地域で様々なかたちで活用されました。

オーリーブでもこのプロジェクトに名乗りをあげ、必要な家庭に食品を届けるとともに、地域で活動する以下の3つの団体にご協力して頂きました。

- ① “とうかつ草の根フードバンク（TKF）” 地元の農家や企業から寄付された食品を東葛地域の子ども食堂に配布する活動している団体です。
- ② “Matsudo 子どもの未来へ With us” 子ども食堂をはじめとする子どもの居場所作りの活動をしている団体です。
- ③ “NPO 法人松戸ゆいネット” 常盤平地区で学習支援事業を行っている団体です。



今回のプロジェクトにご寄付いただいた有志の皆さん、日ごろのネットワークを活かしてコロナ禍においても地域で子の食とつながりのために活動されている皆さんに心から感謝いたします。

★食の支援についてのお問合せはオーリーブへ 047-340-1151

育児の参考に…😊

子どもの発達は、年齢や環境、気質によってさまざまです。

しかし、はっきりとは目に見えない発達に合わせて理解していくことは、骨が折れることと思います。

そんなお悩みについて、子ども側からの視点でみると、何か気づかなかったサインだったと急に理解できたりすることがあります。

子どもの視点から見たら、このことはどううつっているんだろう？にヒントをもらえるサイトがありますので、ご紹介します。

このサイトを作成しているのは、子ども支援専門の国際 NGO「Save the children」です。みなさまも、電車は街中での広告でこの団体を目にしたことがあるかもしれません。おやこのミカタで検索しても、ご覧になれます。

【おやこのミカタ こどもへの「そうだったんだね」が詰まったウェブサイト】

0-18歳のこどもに関わるみなさんへ

<https://www.savechildren.or.jp/oyakonomikata/>

児童家庭支援センター「オリーブ」とは…

千葉県から委託を受けている第2種社会福祉事業です。

0歳から18歳未満のお子さんがいらっしゃる家庭のご相談に応じています。

●電話相談・来所相談・訪問相談 ●相談料無料 ●秘密厳守

開室日：月・水・木・金・日（祝日も開室しています）9：00～18：00

必要に応じて、臨床心理士によるプレイセラピー、カウンセリングも行っています。

〒270-0011 松戸市根木内 145

TEL：047-340-1151・1153

編集後記

昨年はコロナで始まりコロナで終わった一年でした。かつて経験したことのない状況の中、少しずつですが私たちが新しい生活様式に適應しつつあるように感じます。

最初は抵抗があったオンラインでのやりとりもこれがスタンダードになればむしろこちらの方が便利で快適なこととして慣れてくるのかも知れませんが、人々の価値観や常識が大きく変わる時は同時に大きな弊害は避けられないかもしれませんが5年後、10年後にはむしろこちらの方が当たり前の世の中になっているのではないのでしょうか。

コロナがもたらした影響はとても大きく、マスコミの影響もあり、ついついネガティブな情報ばかり目が行きがちですが、物事には必ず両方の面がありどちらに目を向けるのかは、その人自身の選択となると思います。感染予防などできることはやった上で、必要以上に恐れや不安に支配されないようこんなときだからこそ、私たち一人ひとりには力があることを思い出したいものです。